

寺内古墳群、相方遺跡 現地説明会資料

平成28年3月6日(日) 13:30~14:30

公益財団法人 和歌山県文化財センター

和歌山市岩橋 1263 番地の1

Tel. 073-472-3710 Fax. 073-474-2270

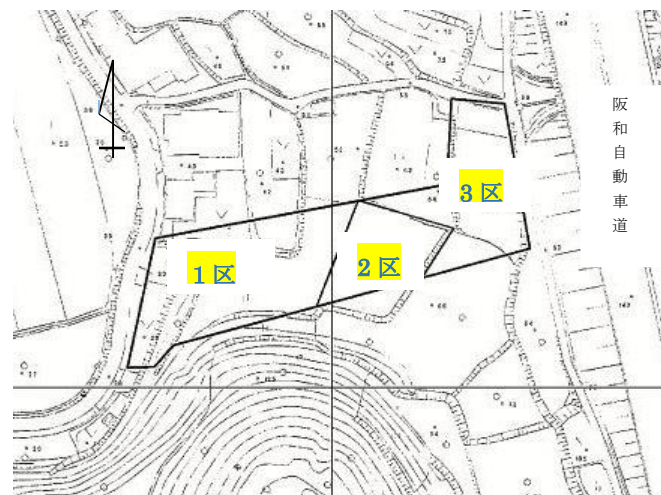
【概要】

寺内古墳群は和歌山市内の寺内、森小手穂、吉礼にまたがる33基の円墳で構成される古墳群です。このうち今回の調査区のすぐ東側の尾根の頂に61号墳と62号墳とよばれている2基の円墳が所在しています。また、相方遺跡は、今回の調査に係る試掘確認調査で新たに発見された遺跡で、平安時代から中世にかけての遺跡と考えられています。

和歌山県文化財センターでは、和歌山南スマートIC建設や県道(和歌山橋本線)の道路改良工事に伴い、西日本高速道路株式会社及び和歌山県の委託を受け、平成27年12月から現地において発掘調査を実施しています。調査地は、県立和歌山東高校のすぐ東側に当たります。調査は土置き場の関係などから大きく3区に分けて実施しましたが、弥生時代の住居跡や中世の建物跡が見つかり、これらに伴う遺物が数多く出土しています。

【調査区1】 丘陵の裾部にあたる箇所、後世の開墾などにより大きく削られているため遺構の残りはよくありませんでしたが、竪穴建物の一部と思われる遺構や中世の掘立柱建物の柱穴、溝跡などが見つっています。また、丘陵の末端部から奈良時代の土器が集中して出土しています。

【調査区2・3】 調査区の東側は高速道路の建設時に大きく削られたもようで、全体に遺構は少ない状況でしたが、西側になるにつれて遺構の残りはよく、ここでは弥生時代の終わりごろと思われる円形の竪穴建物跡や方形の竪穴建物跡が見つっています。このうちの2箇所では煮炊きや暖をとるための炉の跡も確認することができました。また、平安時代の終わりから鎌倉時代の初めと考えられる掘立柱建物も見つかりました。この建物は、南北6間、東西2間の大きさで、東側に庇のつく建物であったと考えられます。そのほか谷筋に並行する幅1m、深さ80cmほどの中世の溝が見つっています。しっかりとした構造であることやその規模からこの周辺の重要な水路であったと考えられます。



調査区位置図



調査地遠景(東から)



竪穴建物跡(円形・方形)



竪穴建物跡



掘立柱建物跡



弥生土器出土状況



土師器皿・瓦器碗出土状況



土師器皿出土状況



盾型埴輪の一部

